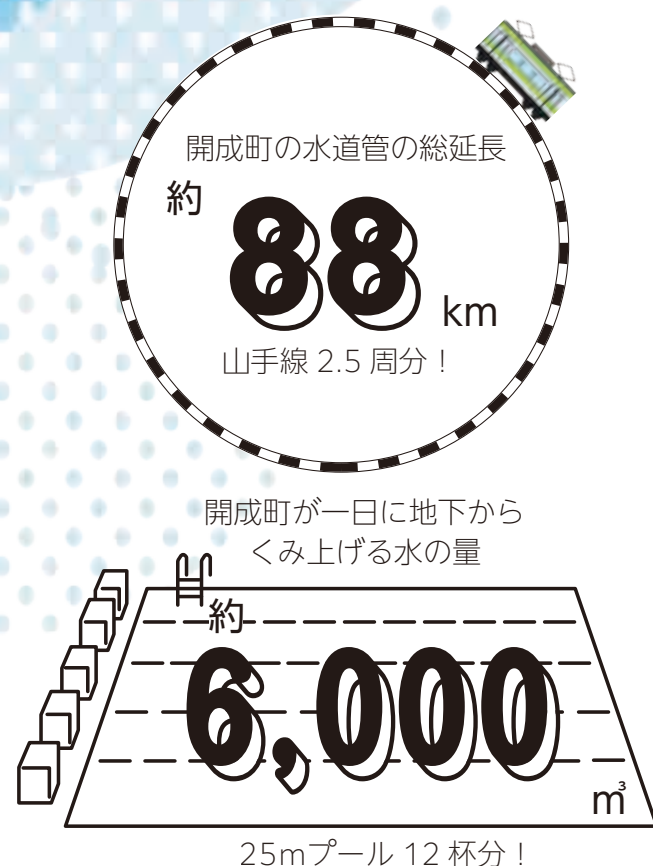




開成町には、総延長約88キロメートルに及ぶ水道管が網の目のように張り巡らされています。これは、山手線2.5周分にあたります。

地下からくみ上げた水は、浄水場で処理され、この水道管を通して、各家庭に届きます。町内6箇所の井戸から一日にくみ上げる水量はなんと約6,000 m³！これは、25mプール約12杯分にあたります。

町の未来を守る
大事なステップ

水道管は、皆さんの暮らしを24時間365日休みなく支える「命のインフラ」です。

お散歩の途中、道路で水道管の工事を見かけた際には、町の未来を守る大事なステップとして、ご理解とご協力をお願いします。

全国的に、高度経済成長期に整備された水道管の老朽化が深刻な問題となっており、年間2万件を超える漏水・破損事故が発生しています。（厚生労働省）

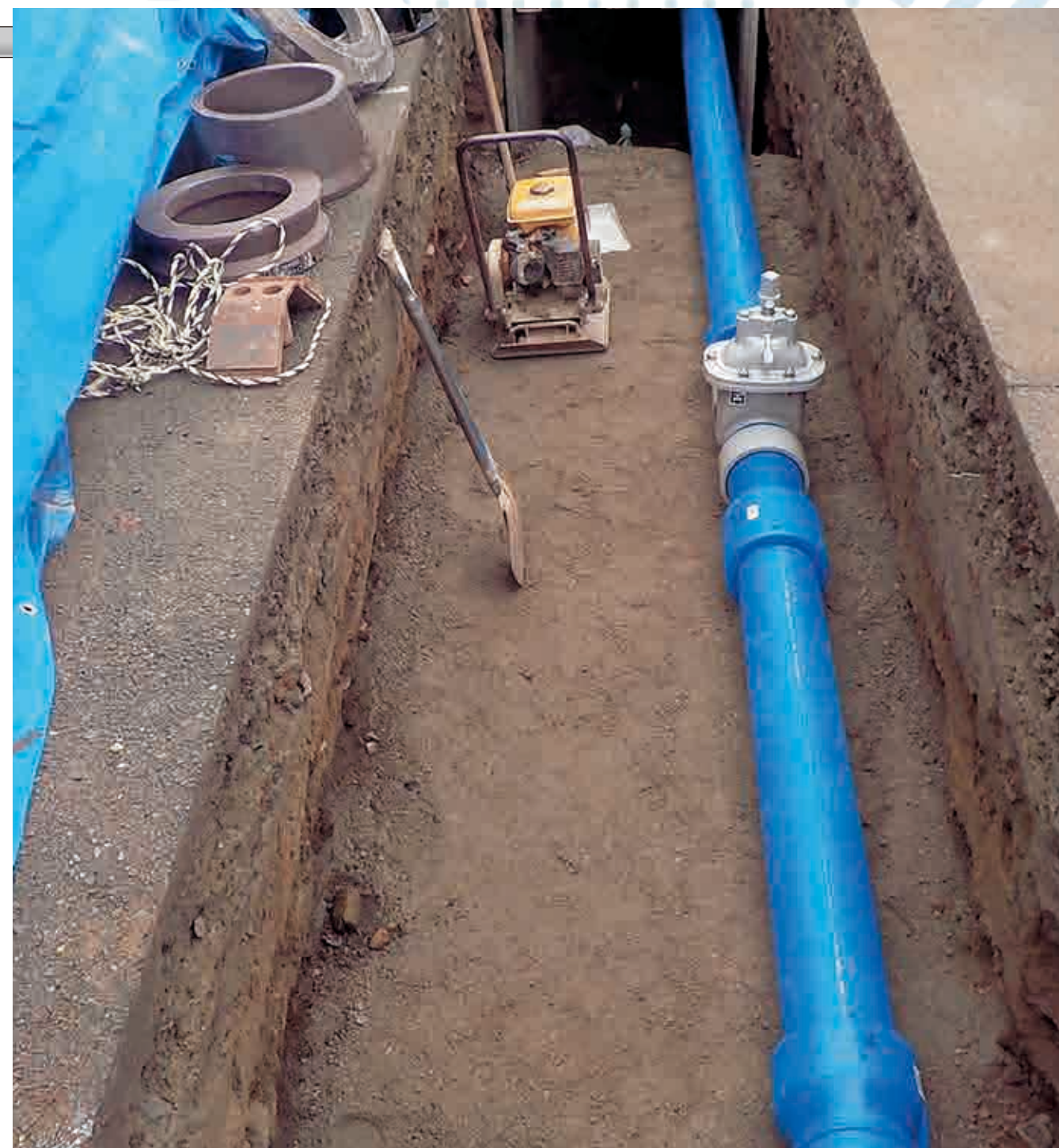
また、水道管の耐震化が進んでいないと、大規模地震の発生時に水道管が被災し、断水などが長期化する恐れもあります。

こうした重大な事態を未然に防ぎ、水道水を安定的に供給するため、町では、耐用年数を迎える水道管の更新や重要な管路の「耐震適合管」への取り換えを計画的に進めています。

あじさいまつりの給水スポットで町の水は大人気でした！



高台第一浄水場
町の水道は、24時間365日コンピューターで監視しています。緊急時には昼夜を問わず、職員が駆けつけ、復旧にあたります。



見えないところで、明日を支える。

開成町の水道管

蛇口をひねれば、いつでも当たり前に出てくる水道水。その当たり前を維持するために、地下に張り巡らされた水道管の設備は、日々様々なメンテナンスや更新が行われています。今月は、知っているようで知らない「開成町の水道管」について特集します。